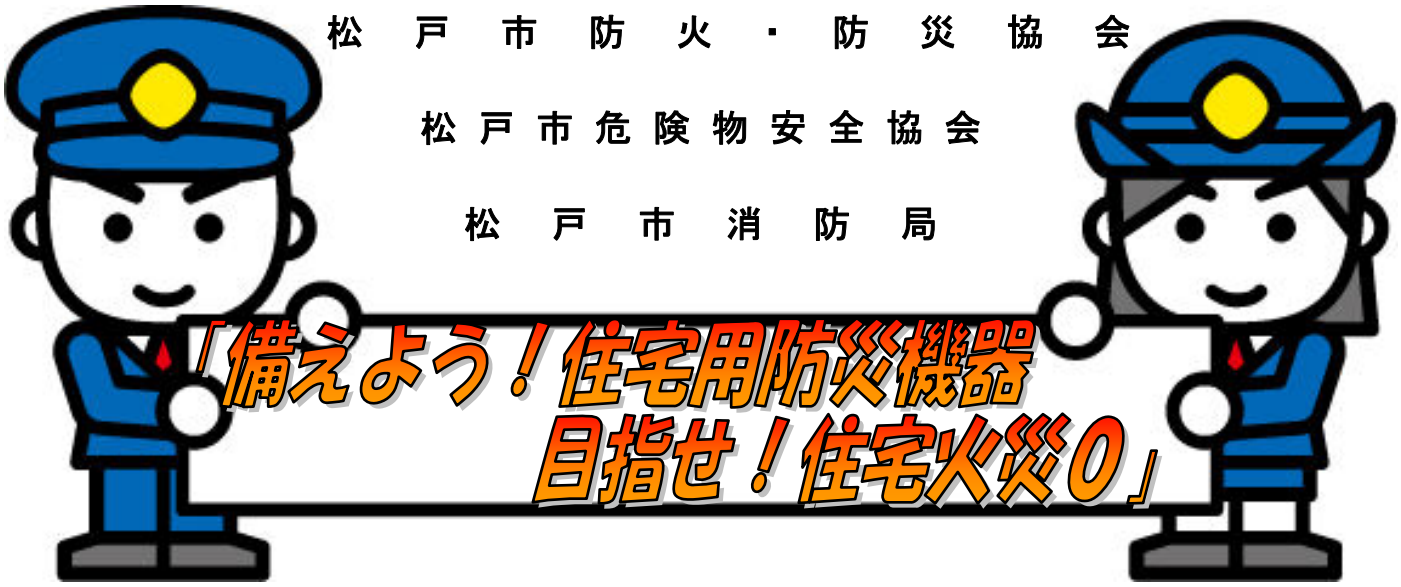


松　戸　市　防　火　・　防　災　協　会

松 戸 市 危 険 物 安 全 協 会

松　戸　市　消　防　局

「備えよう！住宅用防災機器　目指せ！住宅火災0」

平成15年以降住宅火災による死者数は、全国で1000人を超えて、その6割以上が65歳以上の高齢者になっています。
高齢者等を中心とした死者の発生を防止するためには、火災を未然に防止し、早期に発見　し、初期の段階で消火することのできる住宅用防災機器の設置や火災の拡大を防止できる防炎品の普及促進が非常に効果的であると考えます。それぞれの対策に適応する機器等についてご紹介します。

住宅防火　いのちを守る　7つのポイント

◆◇◆　3つの習慣　・　4つの対策　◆◇◆

《３つの習慣》



〇寝たばこは、絶対しない。

〇ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。



〇ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

《４つの対策》

〇逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。

〇寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。

〇火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。

〇お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。



住宅用防災機器等の設置促進



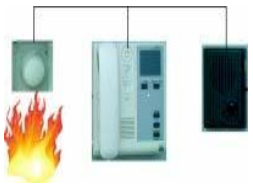
1　住宅用防災機器等とは

一般住宅の防災設備については、各居住者の自主性にゆだねられています。**「自分の家に限っては安心だ」**とつい思いがちですが、実際にはちょっとした不注意から火災が発生して、多くの方が亡くなられており、建物火災による死者（放火自殺者等を除く。）の約9割は、住宅から発生した火災により生じています。

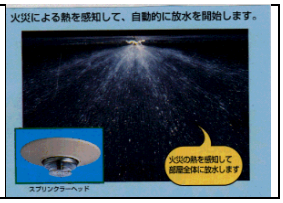
また、そのうち**65歳以上の高齢者が多く**、今後高齢化が益々進展していくことを考えると、住宅火災による死者が急増することが懸念されるところです。

このため、**住宅火災による高齢者等の死者を大幅に減少させることを目指し**、住宅防火対策に積極的に取り組んでいます。 以下に主な住宅用防災機器等を紹介しますので、ご家庭の防災対策の現状にあわせて設置することをおすすめします。

（1）火災を早く知るために

ア　**住宅用火災警報器** 	火災を感知して警報音を出し、火災の発生を素早く知らせます。 乾電池式もあるので、配線工事等の必要がなく、ドライバー1本で簡単に取り付けられます。	
イ　**住宅用自動火災報知設備** 	受信機に熱感知器、煙感知器、ガス漏れ検知器などさまざまな感知器を接続して異常を発見し、それを警報音で知らせます。	

（2）　火災を早く消すために

ア　**住宅用消火器** 	住宅用消火器は、住宅火災に適した消火器として開発されたもので、軽量で簡単に操作できる構造になっています。ABC粉末消火器と強化液消火器とがあります。	
イ　**住宅用スプリンクラー設備** 	熱によって自動的に火災の発生を感知し、スプリンクラーヘッドから水又は消火性能をもつ薬剤を放出することによって、消火・火災抑制をする設備です。	
ウ　**住宅用自動消火装置** 	熱を感知して自動的に消火薬剤を放出して消火・火災抑制をする装置です。高齢者の部屋、厨房等に適応します。	

（3） 火災を拡大させないために

ア **防炎物品** 	防炎物品とは、カーテン、布製ブラインド、じゅうたん等で「防炎」の表示が附され、高層建築物、地下街、病院、幼稚園等のほか不特定多数の人が出入りする建築物では使用を義務付けられています。	

イ **防炎製品** 	防炎製品とは、寝具や衣類などで火が接触しても燃え広がりにくいように加工された製品です。防炎製品認定委員会で認定されたもので「防炎製品」の表示が附されているものは、見ためや手ざわりは普通のものと変わりなく、肌に触れたり、幼児がなめたりしたときの安全チェックもされています。	

（4） 火災を出さないために

・安全装置付きガスこんろ

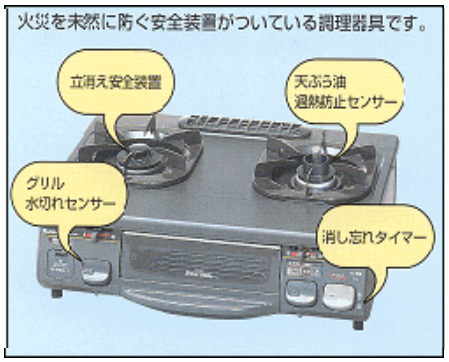
天ぷら油などが加熱・発火する前に自動的に消火します。

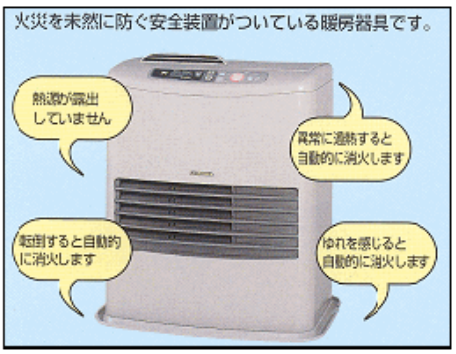
立ち消え安全装置や天ぷら油過熱防止センサーなどがついているものがあります。

・安全装置付き暖房器具

異常燃焼や地震のゆれを感知し、自動的に消火します。





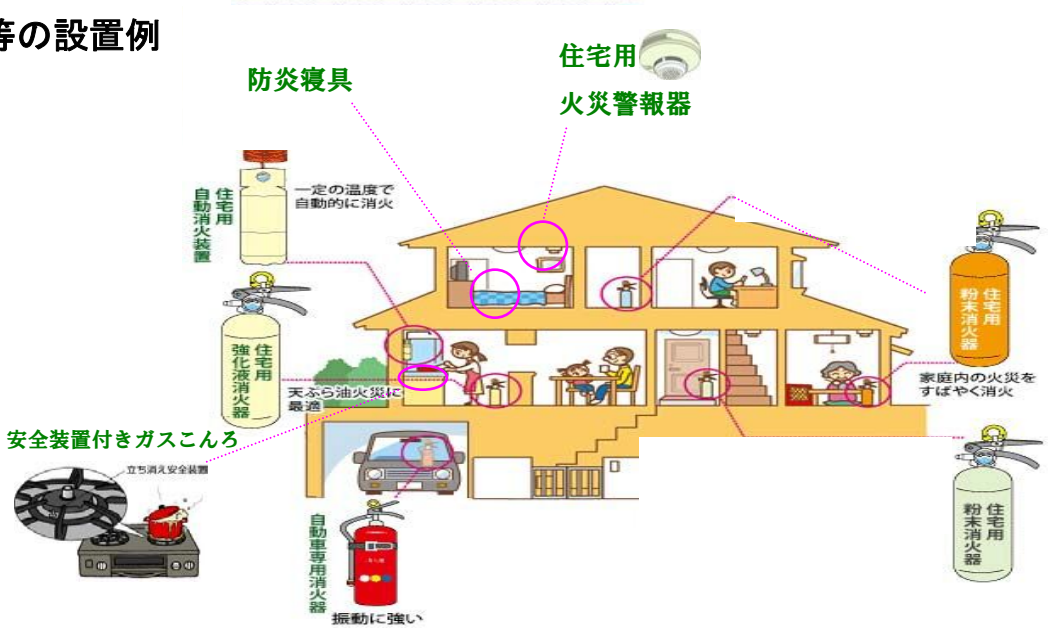


※ 注意点

安全装置がついているからといって、必ずしも安全ではありません!!

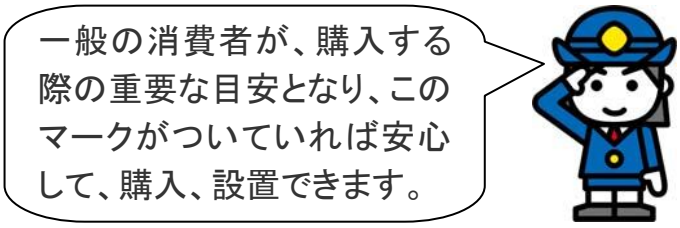
コンロやストーブの周りに**燃えやすいものを置かない。**火を使用しているときは、**その場を離れないように習慣づけておくことも大切です。**

2 住宅用防災機器等の設置例



3　住宅用防災機器等の購入先は

住宅用防災機器等の購入については最寄りの消防署、工業会、機器販売業協会等にお問い合せ下さい。なお、住宅用防災機器等の推奨商品を販売する店舗には「住宅防火推奨商品取扱店」が表示されています。



日本消防検定協会
鑑定マーク

住宅防火対策推進協議会
住宅防火安全マーク

4　住宅用火災警報器購入後の注意事項

- 説明書などに記載された位置に正しく設置しましょう。
- 電池の交換は怠らないようにしましょう。（電池の交換時期を「ピー」という音などで知らせてくれます。）
- 警報器の警報音を定期的に確認するようにしましょう。



付けてよかった　住宅用火災警報器

◆◇◆松戸市内での主な奏功事例をご紹介します◆◇◆

≪事例１≫

共同住宅の居住者が、点火したガスこんろに鍋をかけたまま居眠りをしてしまった。空焚きで作動した住宅用火災警報器の音に隣人が気づき１１９番通報した。

※　住宅用火災警報器鳴動時、火元居住者は警報音に気づかなかったが隣人により消火器で初期消火が実施され、被害を最小限に抑えることができました。

≪事例２≫

一般住宅居住者が、ガスこんろで調理をしていることを忘れて外出してしまった。空焚きで住宅用火災警報器が作動し、警報音に気づいた近隣住民が音のする方を見ると居室内に煙が充満しているのが見えた。呼びかけたが留守であったので、自宅から通報した。

※　住宅用火災警報器鳴動時、留守でしたが、近隣住民が気づき通報した例です。なお、ガスこんろは過熱防止装置が作動し、ガスが遮断されたため火災には至りませんでした。

住宅用火災警報器はあなたの命、大切な家族を守ります。早期に発見することにより早い通報、早い初期消火が可能になり、近隣への延焼防止にもつながります。



設置をしていない方は、これを機会に是非設置しましょう。